

【特】二次合金とスクラップが大幅増

アルミ圧延品、二次合金生産とも二桁増

アルミ橋本健一郎氏リポート②



橋本健一郎氏

■国際概況

六月前半は、相次ぐ強気米経済指標の発表でインフレ懸念から長期金利上昇（一・六％台に）とドル高、十五

十六日の FOMC を控え様子見などのマイナスマテリアルもあつたが、ワクチン接種の世界的普及など背景に需要拡大期待が高まりなどを好感し LME アルミ相場は UP、六月十五日時点で二五六ドル（セツル）と月初価格から一〇二五ドル UP の前半締めとなった。

後半は、米セントルイス連銀総裁が FOMC 予想よりさらに前倒しの二二二利上げとテーパーリングを予想したことを受けたドル高、「アルタ株」の感染拡大とアジア中心にワクチン接種のペースが伸び悩むなどのマイナスマテリアルもあつたが、米連邦準備理事会（FRB）パウエル議長の議会証言が早期利上げを否定、ハト派的だったことから安心感が広がったことを好感し LME アルミ相場は UP、六月末日現在、後半スタート価格から八〇ドル UP の二一五・一八・五ドル。

■前月の経済指標

◆月間のドル/円レート (TTS)

一一〇・四一→一一一・五二(円)。

◆自動車生産台数

生産動態統計によると、五月の自動車生産台数は前年比六四・一％増の四七万二〇〇〇台。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、六月の自動車販売台数(軽除く)は前年比九・二％増の二三四・六九七台。

◆新設住宅着工件数

五月の新設住宅着工は、持家、貸家及び分譲住宅が増加したため、全体で前年同月比九・九％の増加となった。また、季節調整済年率換算値では前月比〇・九％の減少となった。

◆新設住宅着工戸数

新設住宅着工戸数は七万〇、一七八戸で前年同月比九・九％増と、三カ月連続の増加。新設住宅着工床面積は五、八五二千坪で前年同月比二一・六％増と、二カ月連続の増加。季節調整済年率換算値では八七万五千戸で前月比〇・九％減と、五カ月ぶりの減少。

◆貿易関連指標

財務省貿易統計によれば、輸出はアルミ新

地金が前年比三五・九％増の一三〇と、二次合金が六・九％増の一、二四七と、スクラップが四一・四％増の二万四、二五八と、アルミ缶が一四・六％減の六、八八二と。

輸入

輸入は新地金が前年比四二・二％増の二二万八、五四と、二次合金が一五・七％増の九万二、〇五六と、スクラップが六七・七％増の二九八と、合金スクラップは一三・三％増の二、五一九と。

■前月の国内指標

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比二二・八％増の一五万五、〇六二と五カ月連続プラス。

日本アルミニウム合金協会によると、アルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は前年比六六・八％増六万〇、〇〇五と、七カ月連続プラス。出荷は六七・四％増の六万〇、四〇七と、七カ月連続プラス。

■国内概況まとめ

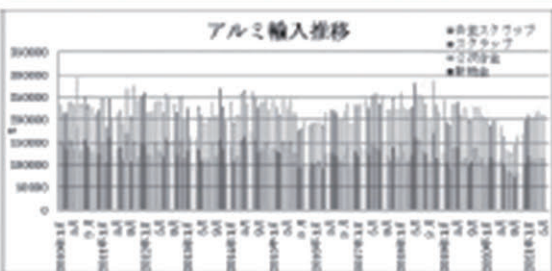
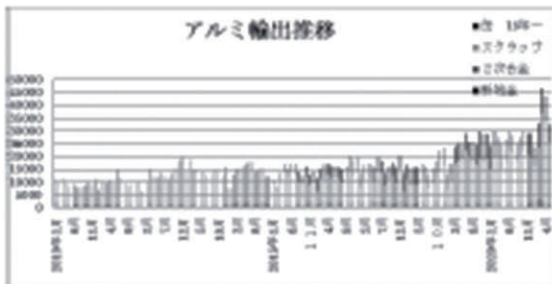
【自動車生産】生産動態統計によると、五月の自動車生産台数は前年比六四・一％増の四七万二〇〇〇台。

輸出は二、三三七台。

【自動車販売】

日本自動車販売協会連合会によると、六月の自動車販売台数(軽除く)は前年比九・二％増の二三四・六九七台。

うち乗用車八・八％増、貨物二二・二％増、バス一一・四％減。(六面へ続く)



スクラップ景況予想、流通(二次間屋)在庫の玉薄続くか

(四週より続く)

【住宅着工戸数】

五月の新設住宅着工は、持家、貸家及び分譲住宅が増加したため、全体で前年同月比九・九%の増加となった。また、季節調整済年率換算値では前月比〇・九%の減少となった。

新設住宅着工戸数は七万〇、一七八戸で前年同月比九・九%増と、三カ月連続の増加。

新設住宅着工床面積は五、八五千㎡で前年同月比二・六%増と、一カ月連続の増加。

季節調整済年率換算値では八七万五千戸で前月比〇・九%減と、五カ月ぶりの減少。

【アルミニウム・押出品生産数量】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比二二・八%増の一五万五、〇六二と五カ月連続プラス。

このうち、板類は一〇万二、一五五とで二一・八%増と、五カ月連続プラス。押出類は五万二、九〇七とで二四・八%増と、三カ月連続プラス。

【アルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績】

日本アルミニウム協会によると、アルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は前年比六六・八%増の六万〇、〇〇五と、七カ月連続プラス。

出荷は六七・四%増の六万〇、四〇七と、七カ月連続プラス。

【輸出】

アルミニウム新地金が前年比三五・九%増の二三〇、二次合金が六・九%増の二二四七と、スクラップが四一・四%増の二万四、二五八と、アルミニウムが一四・六%減の六、八八一。

【輸入】

アルミニウム新地金が前年比四・二%増の一・一六、五四五と、二次合金が二九・七%増の九万二、〇五六と、スクラップが六七%増の二九八と、合金スクラップが一・三%増の三、五一九。

【見通し】

五月の自動車生産が六四・一%増。六月国内販売台数が九・二%増。

生産急増は半導体不足の影響はないとの認識。販売も増加。

今後生産、販売ともに増加していくが注視。
・日本アルミニウム協会発表の圧延品の生

産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比二二・八%増の一五万五、〇六二と五カ月連続プラス。

今後プラスが続くかの動向に注視。

・日本アルミニウム協会によると、アルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は前年比六六・八%増の六万〇、〇〇五と、七カ月連続プラス。

出荷は六七・四%増の六万〇、四〇七と、七カ月連続プラス。

プラスが続くか注視。

・アルミニウム輸出は相場の急騰や外需が比較的好調なことを受けてアルミニウム以外大幅増。

・アルミニウム輸入は国内自動車販売の好調から二次合金とスクラップが大幅増。

【スクラップ景況予想】

流通(二次間屋)在庫は、LME価格が二、四〇〇〜二、五〇〇ドル台と高止まりしたことから玉不足は続く。

需要面に関しては、前月に続き販売が堅調な事による材料不足や国際相場の高騰からの輸入玉の不足から、メーカー在庫は希薄。

【LME・為替予想】

今月は①米経済、景気対策と②中国の景気動向、原料価格抑制策に左右される。

①に関しては

バイデン米政権は二十四日、米国で超党派で一・二兆ドル規模のインフラ投資が合意されたことから、米景気は回復傾向が続くのではないかと。

今回の超党派によるインフラ投資法案の合意は、共和党が米国雇用計画のなかで賛同できる項目であるインフラ投資(ハードインフラ)を中心にまとめた内容。

②に関しては

十六日に発表されていた五月の中国工業生産の伸びが四月の九・八%から八・八%に鈍化したうえ、二十七日には利潤の伸びが同じく五・七%から三・六・四%に大幅に減速したこと、中国政府による原材料高騰への取り締まり強化策の実施も効果がありなかったこと。

これらを踏まえた七月のアルミニウム価格は、二、四〇〇〜二、六〇〇ドル(セツル)との予想。ドル円値は一〇九円〜一一二円(TTM)台を予測。

スクラップ購買価格に関しては、据え置きから五円高程度と予測している。